

明日も元氣で来いよ！

過去最強クラスの寒気が日本列島に流れ込んでいます。関東では、大雪で交通機関の混乱をはじめ、多くの被害が出ています。また、白根山の噴火もありました。被害に遭われた皆様に心からお見舞い申しあげます。そして、人間が抗うことのできない自然の驚異をあらためて感じています。

また、インフルエンザで欠席する児童も増えています。体調管理にご注意ください。現在、欠席している子どもたちは、早く元気になりますように。くれぐれも、大事にしてください。

さて、先の1月17日（阪神淡路大震災から23年）には、たくさんの家庭で、震災についてお話しいただき、ありがとうございます。

5年生では、この日、「しあわせ運べるように」を学級で歌いました。

これは、阪神・淡路大震災後に、当時、神戸市の小学校の先生であった臼井真氏が神戸の復興を願って、作詞・作曲した楽曲です。東日本大震災をはじめ被災した各地を励ますという願いを込めて、各地で歌い継がれています。私は、この歌を口ずさむと、今でもこみ上げるものがあるって、最後まで歌えません。

「しあわせ運べるよう」

地震にも 負けない 強い心を持って
亡くなった方々のぶんも 毎日を 大切に 生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿に戻そう
支えあう心と 明日への希望を胸に
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるよう

その日の「たくましく…」にあった感想の一部を紹介します。

「地震にも負けない～♪」

今から23年前の今日、阪神淡路大震災がおきました。その時、お母さんは高校3年生で、箕面に住んでいたそうです。お母さんは、二段ベッドの上で寝ていて、となりにあったタンスなどが全てたおれたそうです。ドアも開かなくてマンションがかたむいたと聞いて、ギョッとした。“しあわせを運べるように”私も一つの力になれるとうれしいです。…………(5年Jさん)

一般的に、「震災を経験した者は、その体験を語り継がねばならない」とよく言われます。しかし、その体験を口にすることが辛く、苦しい人もいます。23年経った今になって、やっと心の整理ができる語り始めた人もいます。

「人は、苦しく悲しい思いをした分、人に優しくできる」とも言われます。その意味で、震災は、大きく深い、言葉では言い尽くすことのできない悲しみや傷を多くの人々に負わせました。しかし、人々の心に「優しさ」や「思いやり」の大切さを教えてくれたことも確かです。



卒業生から絵葉書の年賀状が届きました

私が本校に着任した1年目に6年生だった太田さんから年賀状が届きました。彼女は、現在パラグアイに住んでいます。もうすぐ大学生になるそうです。

このハガキを朝会で子どもたちに紹介しました。すると、早速、3年生のS君がこの鳥のことを図鑑で調べてくれました。「オオハシ」という鳥の仲間だそうです。

遠くにいる卒業生から年賀状が届いたこと。私の話に対してすぐに反応して調べてくれる子がいたこと。うれしいことが二つもありました。